

子どもの前でのDVは、児童虐待です!

内閣府の「男女間における暴力に関する調査」(平成18年4月)によると、被害者の3人に1人は、配偶者からの行為を「子どもは知っていた」と回答。そのうち7割近くの人が、子どもの心身に「影響を与えたと思う」と答えています。

子どもが直接暴力の被害を受けなくても、子どもの目の前で行われる配偶者に対する暴力は「児童虐待」です。(児童虐待の防止等に関する法律第2条第4号)

暴力を目撃した子どもは心が深く傷つき、さまざまな心身の症状が表れることもあります。人への信頼感が持てず、対人関係に苦しんだり、感情表現や問題解決の手段として暴力を用いてしまうケースも見られます。

子どもの成長にとって、安全で安心な家庭環境は非常に大切です。DV被害だけでなく、子どもへの影響について悩んだ時には、専門機関に相談してください。

※ DV (ドメスティック・バイオレンス) とは、配偶者等の親密な関係にある者からの暴力のことです。

ひとりで悩まず、
相談機関にご連絡ください

パートナーシップさいたま「女性の悩み電話相談」
048・643・5813

●月～金曜日：午前10時～午後8時
●土・日・祝：午前10時～午後4時(年末年始・毎月第4日曜日を除く)

* * * * *

児童相談所「児童相談」(18歳未満の子どもの相談)
048・840・6107

●月～金曜日：午前8時30分～午後6時(祝祭日・年末年始を除く)

相談は無料、秘密は厳守します。



女性に対する暴力をなくす運動

11月12-25

主唱：内閣府その他の男女共同参画推進本部構成府省庁

11月12日～25日は、「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。配偶者等からの暴力、性犯罪、売買春・人身取引、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。

I N F O R M A T I O N

男女共同参画施策に対する苦情の申出制度をご存知ですか?



男女共同参画に関する施策に対する苦情に対して、
中立、公正な立場である苦情処理委員が処理する苦情申出制度があります。*個人の権利侵害に関する苦情は除きます。

こんな改善がありました

- 苦情の申出** 親子のつどいの場「遊び場『ママズルーム』」は、パパなども使いやすい名称に変更してほしい。
- 苦情処理委員** 子育てにかかわる誰もが利用できる印象を与えるような名称に変更する必要がある。
- さいたま市** 『のびのびルーム』に改名しました。

- 【誰でも申し出ることができますか?】**
さいたま市内に在住、在勤、在学の方が申出対象です。また、市内を主な活動拠点とする事業者、団体も対象となります。
- 【苦情処理委員はどのような人ですか?】**
人格が高潔で、男女共同参画の推進に関し優れた見識を持つ方々です。
- 【申出書はどこにありますか?】**
男女共生推進課、パートナーシップさいたま、女・男プラザ、各区情報公開コーナーで配布しています。市のホームページからもダウンロードできます。

●問い合わせ及び提出先 男女共生推進課 **TEL.048-829-1231 FAX.048-829-1969**
●e-mail: danjo-kyosei@city.saitama.lg.jp ●ホームページ: http://www.city.saitama.jp

GUEST MESSAGE

ゲストメッセージ



前向きに日々努力すること 自分らしく頑張ることが大切

演歌歌手 ジェロさん

PROFILE
1981年、アメリカ合衆国・ペンシルベニア州ピッツバーグ出身。ピッツバーグ大学(情報科学専攻)卒業。来日後、英会話学校講師、コンピュータ技術者を経て、2008年2月演歌歌手としてデビュー。日本レコード大賞最優秀新人賞など、数々の賞を受賞。

ピッツバーグ市について
本市では、海外6都市と姉妹・友好都市提携を結び幅広く交流しています。ピッツバーグ市はペンシルベニア州の主要都市で人口約31万人、1998年5月に姉妹都市提携に調印しました。これまでの交流事業として、「市民訪問団による相互訪問」や「高等学校生徒派遣事業」などがあります。

姉妹都市ピッツバーグは魅力的な街
外国人演歌歌手として、昨年2月に鮮烈なデビューを果たしたジェロさん。日本的感性を持つ外国人演歌歌手の歌唱力に、誰もが驚きと感動を抱いた。ジェロさんは、さいたま市の姉妹都市である、アメリカ・ペンシルベニア州ピッツバーグ市の出身。

「ピッツバーグは都会ですが、のんびりしたところで、都心から少し離れるとたくさんの自然にあふれています。学生の頃は友達とよくダウンタウンで遊びました。夜景が美しく魅力的な場所です。おばあちゃんとは、アジア系の店が並ぶショッピングモールによく行きました。今でもそこを通るとおばあちゃんのことを思い出

します」

幼い頃から祖母の影響で演歌を聴いて育ち、演歌歌手への夢が膨らんでいった。

日本の職場で感じたこと

2003年に大学を卒業後来日し、英会話学校講師になったが、もつと日本語を話せる環境で仕事をしたいと、日本語検定2級を取得、「コンピュータ技術者の仕事に就いた。その職場でジェロさんは、母国との違いに気づく。」

「上司から部下への話し方とか、上下関係が厳しかったですね。アメリカでは、それほど厳しくないし、上司が部下へ『お願いします』、『ありがとう』は当然のことです。それだけでも、職場は和むし、部下もやる気が出るのにと感じました」

母への感謝

女性像について尋ねると、「お母さんは、僕が中学生のときからずっと働いていました。一人で僕を育ててくれて、大学を卒業することもでき、感謝の気持ちでいっぱいです」と語るジェロさん。「だから、将来結婚しても、パートナーが働くことは応援したい。目標や夢を持っている女性って素敵ですよ。魅力を感じます」と、相手の生き方や気持ちを大切に考えている。

華やかさの裏にある不安

昨年の活躍で脚光を浴びているジェロさんだが、デビュー前の2年間にわたるヴォイストレーニング中には、成長しない自分にはがゆく思えて悩むこともあった。華やかなステージに立ちながら、将来の不安

は常にあると語る。「新人賞などをいただいて充実した1年でしたが、ずっと演歌歌手として生きていけるという保証はないです。だから、日々前向きに努力しようと思っています」と厳しさも感じている様子。

自分を信じて将来の夢に向かう

「ピッツホップ系ファッションにしたのは、自分らしく演歌を歌いたかったからです。以前は、第三者が自分のことをどう思っているか気になりましたが、誰かに言われて自分を変えるのではなく、自分というものをしっかりと見据えて、相手が自分を気に入らないなら仕方ないという考え方になりました。ジェロは本物の演歌歌手ではない、と言っ方もいらっしやるでしょうが、『本物ですよ』なんて言う必要はないと思っています。自分のことを信じて、夢を諦めないことが大切です。もし上手いかなかったとしても、自分らしく頑張ったといえることが大事だと思います」

デビューしてから今日までに、活動範囲は広がり、故郷であるピッツバーグで凱旋コンサートを開催。「日本語の通じない地元の方々から『魂を感じる歌でした』と声をかけられ、僕が子どもの頃受けた気持ち、僕の歌で感じてもらえてとても嬉しかったです。僕はアメリカには帰らず、一生日本で演歌を歌っていくつもりです。今後は、俳優の勉強も頑張りたいです」と、瞳を輝かせる。

ジェロさんの魂の歌は、世界中の人々に伝わるだろう。これからも、おばあちゃん、の祖国、日本で一杯頑張るジェロさんを応援していきたい。